

ジュンカス ツイスター

学名: *Juncus effusus spiralis*

種子粒数の目安: 625 粒(マルチペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は(0.75mmhos/cm(2:1))とする

播種

プラグトレイサイズ: 72 穴や 128 穴、288 穴、またはこれらと同等の容積のサイズのトレイが適当(ヨーロッパで用いられる 264 穴サイズ等も可能)。播種後、覆土はしない

ステージ 1 - 発芽には概ね 10 から 13 日を要する

地温: 20 から 26°C

光条件: 発芽時、光はオプション(任意)である

水分: 発芽期間中は、水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度 100%を維持

ステージ 2

地温: 20 から 21°C

光条件: 同ステージでは 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 標準/中庸(level 3)へ水分レベルを少し下げて、根が培地中をしっかりと行き渡るように促す

肥料: レート 1(100ppm 以下(N)、EC は 0.7mS/cm(1:2) 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態肥料を与える。培地は、pH を 5.8 から 6.2、また EC を 0.5 から 0.7mS/cm (2:1))で維持

ステージ 3

地温: 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 次の水やりの直前までは、培地の表面が薄茶色になるよう培地は乾燥ぎみに管理する。乾燥させすぎて、苗を枯らせないように注意する

肥料: レート 2(100 から 175ppm(N)、EC は 0.7 から 1.2mS/cm (1:2))の濃度へ上げる

矮化剤: 不要である

ステージ 4

地温: 18 から 19°C

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: 培地は、ドライとウェットのサイクルを反復させる。乾燥させすぎて、苗を枯らせないように注意する

肥料: ステージ 3 と同様に管理する

鉢上げから出荷まで

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の養分は中庸とする(EC: 0.75mmhos/cm)

苗の移植

苗を鉢に植える際は深植えしない

温度

日間温度: 19 から 23°C

夜間温度: 15 から 18°C

※ 株は 10°Cの低温条件でも生長を続けるが、温度が低いと出荷までの期間が大幅に遅れるので注意する

照度(光条件)

温度管理がなされていれば、照度はできるだけ高くする

かん水

基本的に培地が乾かないように注意する。ツイスターは多少、過湿ぎみでもよく育つ

肥料

移植後 1 週を経ってから、レート 3(175 から 225ppm (N)、EC: 1.2 から 1.5mS/cm)の濃度で、リン酸の低い硝酸態肥料を週に一度与える。アンモニア態肥料を過剰に投与すると、株が横に広がって、アップライトの性質が現れなくなるので避ける。培地は、pH を 5.5 から 6.2、また EC を 1.5 から 2.0mS/cm(2:1))で維持

矮化剤(PGR)

矮化剤は不要である

ピンチ

ピンチは不要である

生産時のスペーシング

ポットを密に置いて管理する

コンテナサイズと移植プラグ本数

カットバック/9cm ポット等: 1 本植え

6cm ポット: 1 本植え

10.5cm ポット: 1 本植え

15 から 18cm ポット: 1 から 3 本植え

平均的な生産期間

コンテナ サイズ	株本数/ ポット・コンテ ナ	移植から出 荷まで(週)	播種から出 荷(まで週)
カットバック	1	6-7	13-15
6cm ポット	1	5-6	12-13
9cm	1	6-7	13-15
10.5cm	1	7-8	14-16
15-18cm	3	7-8	14-16

※ 15cm ポットによる、移植から出荷までの週数は3本植えを前提としている。15あるいは18cmへ1本植えを行う場合は、さらに2週ほど長く要する

病例等

とくに大きな病例、虫害例の報告はない

定植時のアドバイス

定植場所: 日なた、日陰を問わない

定植後の草丈: 30から35cm

定植後の株張り: 30から35cm

アメリカ USDA による耐寒性指標:

ゾーン 5(最低温度: -29°C)

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。